

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400105		
法人名	株式会社 大地		
事業所名	グループホーム優芽 1号館		
所在地	北海道苫前郡苫前町字古丹別249番地9		
自己評価作成日	平成27年9月10日	評価結果市町村受理日	平成27年10月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigvogyoCd=0196400105-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvogyoCd=0196400105-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成27年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の施設目標として「自由」としました。この目標に関しては、入居者様個々の生活リズムで在宅時と同じリズムで生活して頂くことによって身体や精神状態も良い方向に向いてほしいと願いたい為です。また新たに興味のある事が増えたりすることにより「張り合い」「楽しみ」「生きがい」が増えてほしい、家族が面会に来た時に「元気になってきた」「笑顔が見えてきた」と言って頂けるような関わりをする為に目標を立てました。今年度より新たに実践している事は2ヶ月に1度新聞を発行し家族に日常生活状況を伝えています。また、常勤ではないが看護師を採用したことにより、家族に安心してもらえること、職員も安心して介護にあたることができ、医療に対しての知識が増え介護技術の向上に繋がれると思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<日常的な外出支援>**  
一人ひとりのその日の希望に沿って、近くのコンビニやAコープでの買い物、近隣への散歩や町内のイベントへの参加など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、古丹別神社祭や郷土資料館見物、ニシン番屋や羽幌公園、ふわっと温泉で足湯を楽しむなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。

**<職員を育てる取り組み>**  
職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、移乗介助や接遇、体位変換や身体拘束廃止等の施設内研修を年間計画を立てて実施して働きながらトレーニングしていくことを進めている。また、実践者研修や管内の同業者との交流を通じて外部の研修を受ける機会を確保している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を玄関に掲示し、全体会議の中で常に意識して話し合うようにしている。	事業所独自の理念を毎月の全体会議やユニット毎の会議等を通じて話し合い、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所主催の行事に関しては、地域住民や家族に対して参加を呼び掛けたり、近隣の保育園と交流を深めたり、買い物等地域の店を活用している。	「ゆめまつり」やチャリティーフェスティバルの開催で地元の人々に参加を呼び掛けたり、近隣の保育園児や地元中学生との交流を通じて地域との交流に努めている。	今後は、さらに施設行事の参加の呼びかけや火災避難訓練への協力、保育園や小学校、中学校や高校のイベントへの協力を推進していく計画を検討しているので、その実践に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の行事への参加や避難訓練などを通じて認知症への理解をしてもらえる場を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議の開催で行事に3回程参加してもらい、感想や評価等意見を頂き今後の参考にしたり、運営面やサービス面の相談をして向上を目指している。	運営推進会議を年6回を目安に開催し、事業所の取り組み状況や地域との連携等の具体的内容を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者とは常にメールや電話等で情報交換を行い、協力体制を築いている。	町担当者とは、日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に理解をしてもらう為にも、施設内研修の中で身体拘束の理解を深めると共に、来訪者に対しても各ユニットの玄関にも掲示している。	身体拘束廃止や接遇等の施設内研修を実施して、職員間で共有し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から新聞やテレビ、インターネット等で情報があつたことについて施設内研修等で職員と話し合い、入浴等で利用者の身体状態の確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に積極的に参加し、施設内研修で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者や家族に理解や納得を得るまで説明し、また改定等の際は通知等して同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニット玄関に意見箱を設置し、苦情・相談窓口の掲示をしている。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように、玄関入り口に意見受付箱を設置し、その機会を設けている。また、第三者機関の申し出先を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各館の会議、介護員会議、施設(幹部)会議等で職員の意見を聴いたりアンケートを書いて提出してもらい反映している。	全体会議やユニット毎の会議等で職員の意見や要望を聞く機会を設け、そこでの意見を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤や退社時間の厳守に努めると共に、勤務時間外が発生した際は手当を支給している。また、職場環境に於いても職員の要望に沿うように配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修の積極的な参加及び施設内に於いてもマニュアルの統一、実技講習を行い技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	苫前町内に関わらず、羽幌町や小平町の施設へ行き、情報交換や訪問等サービス向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時に本人に不安や要望の聞き取りを行い、入所後に於いてもその都度職員が対応し安心して過ごしてもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に家族に不安や要望の聞き取りを行い、入所後に於いてもその都度職員が連絡をとり良い関係を保てるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接時に本人家族に必要なとしている支援などを聞き取り、入所後の状態に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやってもらい、身体状態に応じて日常生活での作業を職員と共に実施してもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に職員より身体状態や生活状況を報告したり、受診の報告は月末書式にして報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人との関係が途切れないようにドライブや散歩で買い物に行ったり、地域の行事に参加したりしている。	近くのコンビニやAコープでの買い物、近隣への散歩や町内のイベントへの参加、馴染みの理美容院の利用など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地元の人が多く入居されているため、安心されている方が多いが、孤立されている人がいた場合はゲームやカラオケをしながら利用者同士の関わりを増やしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、職員が面会に行ったり、連絡を交わすようにしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活リズムを考慮し、困難な場合があっても出来る限り達成できるように配慮している。	アセスメントを通じて一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接により、家族に聞き取ったり、在宅時の状況を確認してもらい役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけリズムが崩れないよう、心身の状態が悪くならないようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎モニタリングを行い、医療機関からの指導・助言を担当者会議等で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意見や要望、医師及び看護師からの指導や助言、担当者会議で職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌や担当者会議等で共有した情報を介護計画書の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当職員が本人や家族に聞き、画一的なサービスにならないよう状況に応じた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人個々の状態を把握し、その人のニーズに合った暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と協力しながら、本人や家族の希望を聞き、適切な医療を受けられるよう支援している。	在籍する看護師や日常の健康管理、通院等への支援で適切な医療を受けられるようにしている。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師が相談し合い適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院になった際に出来るだけ詳しい情報を伝える為にあらかじめ看護サマリーを作成し情報を伝えている。また病院関係者である連携室に適時訪問し情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ(契約時)看取りが出来ない事を家族に理解してもらい、重度化した場合に家族を含め病院関係者や地域関係者と相談し方向性を話し合っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、地域柄医療との連携が難しいことから早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明し、職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内に於いて消防職員によるAED・心肺蘇生法の講習を開催してもらったり、9/9の救急の日には消防署に出向き講習をしてもらい急変時の対応が出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の備えをあらかじめ準備すると共に近くにある消防署や警察署、地域住民にも協力をしてもらえるよう体制を整えている。	スプリンクラーや通報装置、火災報知器等の設備を完備し、定期点検も実施している。また、消防署とは日頃から連携し、年2回の火災避難訓練や救急救命訓練にも協力を得ている。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実技研修等で認知症に対してや一人ひとりに合った言葉使いをするよう職員間で周知を図っている。	接遇等の施設内研修で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望があった時は、その都度答えてあげられるように配慮したり、家族に相談して出来る限り実現するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	決して職員の都合で行わず、利用者優先を重視し充実した1日を過ごして頂けるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎に地域の美容室をお願いしたり、行きつけの美容室に行ったり、外出時には自分で服を選んで頂いたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備を手伝ってもらったり食器洗いや片付けをして頂いています。	近隣のレストランへの外食ツアーを行っていたり、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に調理の準備や盛り付け、後片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを元に調理を行い、その人に応じた量や禁食があった場合は別な物を代用したりして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛けにより口腔ケアをしてもらい、夜間は義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じた排泄パターンを話し合い、トイレで排泄できるようにすると共に、オムツの使用を減らすために布パンツを履いてもらうにしている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時牛乳の提供をしたり、プリンやヨーグルトを提供している。運動等に関しては、天候に応じての散歩、腹部マッサージ等個々に応じた対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本週2回を目安で午後から毎日実施しているが、入浴の希望があった場合はその都度入浴をしてもらっている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせる事はもちろん、状況に応じて湿度・温度の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明や注意等を服薬簿に綴り、いつでも確認できるようにしている。また、服薬チェックシートに写真を貼り個数や種類を確認し直前まで注意を払い対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活から張り合いをもって生活して頂くためにできる事を手伝って頂いたり、事前に聞き取り、趣味や楽しみごとをして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の要望によって、買い物に出掛けたり、地域のイベントに積極的に参加したり、外食等をしている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、近くのコンビニやAコープでの買い物など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、郷土資料館見物やふわっと温泉で足湯を楽しむなど普段は行けないような場所でも、戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理しているが、買い物など必要に応じて手渡し、自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方、家族や友人と自由に手紙のやり取りをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けや、利用者の作品を掲示したりして、利用者にとって不快や混乱を招く事がないように配慮している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には季節ごとの飾りつけや利用者の作品が掲示されるなど生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人が心地よい場所で自由に過ごして頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で過ごす事が多い利用者に対しては御家族様と相談して使い慣れた家具や寝具を使用してもらっている。	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内で散歩等運動が出来るよう障害物になるようなものは置かず、いつでも休むことが出来るようベンチや椅子を置いている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400105		
法人名	株式会社 大地		
事業所名	グループホーム優芽 2号館		
所在地	北海道苫前郡苫前町字古丹別249番地9		
自己評価作成日	平成27年9月10日	評価結果市町村受理日	平成27年10月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0196400105-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0196400105-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成27年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の施設目標として「自由」としました。この目標に関しては、入居者様個々の生活リズムで在宅時と同じリズムで生活して頂くことによって身体や精神状態も良い方向に向いてほしいと願いたい為です。また新たに興味のある事が増えたりすることにより「張り合い」「楽しみ」「生きがい」が増えてほしい、家族が面会に来た時に「元気になってきた」「笑顔が見えてきた」と言って頂けるような関わりをする為に目標を立てました。今年度より新たに実践している事は2ヶ月に1度新聞を発行し家族に日常生活状況を伝えています。また、常勤ではないが看護師を採用したことにより、家族に安心してもらえること、職員も安心して介護にあたることができ、医療に対しての知識が増え介護技術の向上に繋がれると思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を玄関に掲示し、全体会議の中で常に意識して話し合うようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所主催の行事に関しては、地域住民や家族に対して参加を呼び掛けたり、近隣の保育園と交流を深めたり、買い物等地域の店を活用している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の行事への参加や避難訓練などを通じて認知症への理解をしてもらえる場を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議の開催で行事に3回程参加してもらい、感想や評価等意見を頂き今後の参考にしたり、運営面やサービス面の相談をして向上を目指している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者と常にメールや電話等で情報交換を行い、協力体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に理解をしてもらう為にも、施設内研修の中で身体拘束の理解を深めると共に、来訪者に対しても各ユニットの玄関にも掲示している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から新聞やテレビ、インターネット等で情報があつたことについて施設内研修等で職員と話し合い、入浴等で利用者の身体状態の確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に積極的に参加し、施設内研修で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者や家族に理解や納得を得るまで説明し、また改定等の際は通知等して同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニット玄関に意見箱を設置し、苦情・相談窓口の掲示をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各館の会議、介護員会議、施設(幹部)会議等で職員の意見を聴いたりアンケートを書いて提出してもらい反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤や退社時間の厳守に努めると共に、勤務時間外が発生した際は手当を支給している。また、職場環境に於いても職員の要望に沿うように配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修の積極的な参加及び施設内に於いてもマニュアルの統一、実技講習を行い技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	苫前町内に関わらず、羽幌町や小平町の施設へ行き、情報交換や訪問等サービス向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時に本人に不安や要望の聞き取りを行い、入所後に於いてもその都度職員が対応し安心して過ごしてもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に家族に不安や要望の聞き取りを行い、入所後に於いてもその都度職員が連絡をとり良い関係を保てるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接時に本人家族に必要としている支援などを聞き取り、入所後の状態に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやってもらい、身体状態に応じて日常生活での作業を職員と共に実施してもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に職員より身体状態や生活状況を報告したり、受診の報告は月末書式にして報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人との関係が途切れないようにドライブや散歩で買い物に行ったり、地域の行事に参加したりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地元の人が多く入居されているため、安心されている方が多いが、孤立されている人がいた場合はゲームやカラオケをしながら利用者同士の関わりを増やしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、職員が面会に行ったり、連絡を交わすようにしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活リズムを考慮し、困難な場合があっても出来る限り達成できるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接により、家族に聞き取ったり、在宅時の状況を確認させてもらい役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけリズムが崩れないよう、心身の状態が悪くならないようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎モニタリングを行い、医療機関からの指導・助言を担当者会議等で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌や担当者会議等で共有した情報を介護計画書の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当職員が本人や家族に聞き、画一的なサービスにならないよう状況に応じた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人個々の状態を把握し、その人のニーズに合った暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と協力しながら、本人や家族の希望を聞き、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師が相談し合い適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院になった際に出来るだけ詳しい情報を伝える為にあらかじめ看護サマリーを作成し情報を伝えている。また病院関係者である連携室に適時訪問し情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ(契約時)看取りが出来ない事を家族に理解してもらい、重度化した場合に家族を含め病院関係者や地域関係者と相談し方向性を話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内に於いて消防職員によるAED・心肺蘇生法の講習を開催してもらったり、9/9の救急の日には消防署に出向き講習をしてもらい急変時の対応が出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の備えをあらかじめ準備すると共に近くにある消防署や警察署、地域住民にも協力をしてもらえよう体制を整えている。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実技研修等で認知症に対してや一人ひとりに合った言葉使いをするよう職員間で周知を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望があった時は、その都度答えてあげられるように配慮したり、家族に相談して出来る限り実現するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	決して職員の都合で行わず、利用者優先を重視し充実した1日を過ごして頂けるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎に地域の美容室にお願いしたり、行きつけの美容室に行ったり、外出時には自分で服を選んで頂いたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備を手伝ってもらったり食器洗いや片付けをして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを元に調理を行い、その人に応じた量や禁食があった場合は別な物を代用したりして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛けにより口腔ケアをしてもらい、夜間は義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じた排泄パターンを話し合い、トイレで排泄できるようにすると共に、オムツの使用を減らすために布パンツを履いてもらうにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時牛乳の提供をしたり、プリンやヨーグルトを提供している。運動等に関しては、天候に応じての散歩、腹部マッサージ等個々に応じた対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本週2回を目安で午後から毎日実施しているが、入浴の希望があった場合はその都度入浴をしてもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせる事はもちろん、状況に応じて湿度・温度の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明や注意等を服薬簿に綴り、いつでも確認できるようにしている。また、服薬チェックシートに写真を貼り個数や種類を確認し直前まで注意を払い対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活から張り合いをもって生活して頂くためにできる事を手伝って頂いたり、事前に聞き取り、趣味や楽しみごとをして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の要望によって、買い物に出掛けたり、地域のイベントに積極的に参加したり、外食等をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理しているが、買い物など必要に応じて手渡し、自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方、家族や友人と自由に手紙のやり取りをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けや、利用者の作品を掲示したりして、利用者にとって不快や混乱を招く事がないように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人が心地よい場所で自由に過ごして頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で過ごす事が多い利用者に対しては御家族様と相談して使い慣れた家具や寝具を使用してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内で散歩等運動が出来るよう障害物になるようなものは置かず、いつでも休むことが出来るようベンチや椅子を置いている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム優芽

作成日: 平成 27年 10月 08日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	2	施設行事や火災避難訓練など地域住民の参加や協力が得られていないと思われる為、更なる理解が必要である。	隣近所への関わりを増やし、いつでも助け合いができるようにしたい。	施設行事の参加の呼びかけ、火災避難訓練への協力や地域イベントや保育園、小学校、中学校、高校のイベントの協力と参加	1年～2年
2	48	張り合いや喜びのある日々を過ごして頂くようにするために建物内だけでは気分転換には足りないと感じている。	利用者が自由に施設内外を行き来でき花畑や野菜畑を手掛けたり鑑賞したりして、気分転換を図れるようにしたい。	建物内外を行来できるような通路を設け、花壇や野菜畑を作り、ベンチ等を設置する。	1年～2年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。